

みどりを未来へつなぐために

— これからの樹木管理 —



練馬区

みどりに恵まれた 良好な生活環境のために

大都市東京の都心近くにありながら、豊かなみどりに恵まれた住宅都市、それが私たちのまち"ねりま"です

公園の樹木や街路樹など私たちの身近にあるみどりは、緑陰や四季折々の景観の演出など、生活に潤いやゆとりをもたらす大きな役割を果たしています。

"みどり全体"の質をさらに高め、より安全で良好なみどりの生育環境を創出し、次の世代に引き継いでいきます。

また、みどりの役割や特性などに応じ、生き物にも配慮した管理を行います。

将来の姿のイメージ

※イラストは『グランドデザイン構想』から抜粋



みどり豊かな森では、生き物や林床植物にも配慮した管理を進めます

樹木の若返りを進めます



樹木の間引きなどの適正な手入れを行います

健全度の低い樹木を適切に更新します

シンボルとなる樹木の保全に取り組みます



樹木の補植などに取り組みます

豊かなみどりを健全に育てるための"必要な一手"

「密」な樹木の間引き

かつての雑木林は、薪や炭の材料として木を切り出したり、落ち葉かきをしたりと、人の手が入ることで明るい環境が維持されてきました。現在は、単に過去の習慣を再現するのではなく、地域の实情に合わせた「現代版の雑木林の管理」が必要です。

例えば、かつて行われていた一定範囲の木をすべて伐採する「皆伐^{かいばつ}」は、現在の都市部では防災や景観の観点から適しません。そのため、大きく育ちすぎた樹木や高齢の樹木を中心に間引く手法を取り、安全に配慮しながら林の更新を図ります。

■ 発生した木材の有効活用

間引き等で発生した木材を資源として再利用し、環境や生態系に配慮した健全なみどりの維持と、みどりの資源の循環を図ります。

- ◎ 生き物のすみかづくり：伐採した枝などを積み上げて「カントリーヘッジ（枝の垣根）」を作ります。小鳥や昆虫などの多様な生き物のすみかとなり、地域の生物多様性を高めます。
- ◎ ウッドチップとしての活用：木材を粉碎してチップ化し、園路に敷きならすことで、雑草の抑制や土壌の保護に役立てます。



カントリーヘッジ
[千坪憩いの森 / 東大泉5丁目]

健全な根を育成する土壌環境の拡充

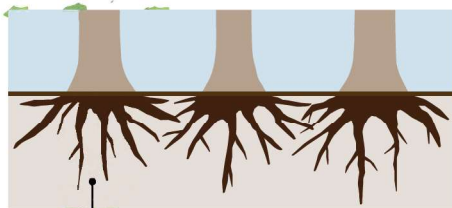
健全な樹木は地中に根を広げ、高く伸びた幹や広がる枝葉をしっかりと支えています。しかし、樹木が過密している場所では、隣の樹木が高さを求めて幹が細長く上に伸びると同時に、地中でも根を張る場所を奪い合います。

その結果、根を深く広く張ることができず、高く伸びた幹や広がる枝葉を支える力が極端に低下し、一見健康そうに見えても、貧弱な幹と根で体を支えているため、強風が吹くと倒木の恐れがあります。

樹木の間引きによって光と空間を確保することで、根が四方にしっかりと張り、幹も太く丈夫に育ちます。その結果、強風にも負けない、健全で安全な樹木が育まれます。

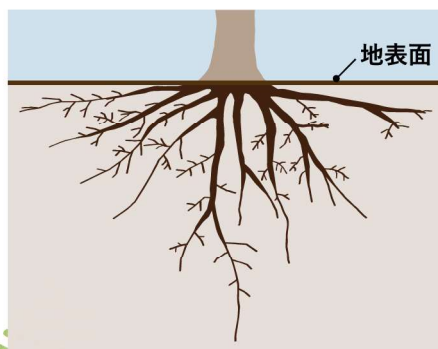
街路樹についても、根が伸ばしやすい土壌を採用するなど、適正な生育環境の整備を進めています。

干渉している状態



地下で根がぶつかりあい
根を十分に伸ばすことができない

正常に根を伸ばしている樹木のイメージ



樹木管理の現状

これまでも区では、定期的な点検や必要に応じ樹木医による診断を行い、一本一本の樹木を大切に育ててきました。しかし、街の発展とともに植えられた木々は大きく成長し、現在、「高木化・老木化」や「過密化」という新たな課題に直面しています。

- 樹木がうっそうと茂ることによる、日当たりの悪化や見通し・風通しの低下
- 幹の空洞化や根の衰弱が進んだ樹木の増加による、倒木や落枝などの事故リスクの上昇



日照不足

公園内の見通しの悪さ

うっそうとした樹林の問題



病害虫による被害

幹の空洞化

根の腐朽

健全に見える樹木の倒木の原因

これからの管理手法

これまでの管理手法だけでは、生活環境や私たちの安全な暮らしを守り続けることが難しくなっています。そこで、区では安全を確保しつつ「みどりの価値」をさらに高め、次世代へつなぐための取組を進めます。

- 一本一本の樹木の育成に加え、樹木の集まりである「みどり全体」の健全性にも着目した管理の実施
- 状況に応じた計画的な伐採や間引き、および次代を担う「後継樹」の育成による、持続可能な循環の形成



練馬区からのメッセージ

伐採や間引きに対して、区民の皆様から、「樹木がかわいそう」「せっかく育ったみどりをなくすことに痛みを感じる」など様々な声をいただくことがあります。

この伐採や間引きはみどりを「なくす」ではなく、樹木の間隔を適切に保ち、通風や日照を確保し、みどり全体を健康に保つための大切な取組です。こうした取組により、みどり全体の健全性を高め、落枝や倒木のリスクを改善でき、萌芽更新*などの樹木更新により、次世代に安全で美しいみどりを引き継ぐことができます。また、作業で発生した枝葉は、ウッドチップとしての再利用や、憩いの森などでの生き物のすみかづくりに活用するなど、生き物に配慮した環境づくりに役立てていきます。

区では、みどりの安全性と健全性の両面に着目した管理方法を通じ、今後もねりまの魅力であるみどりを適切に管理し、守り育てながら保全する取組を行います。

なお、管理作業の実施にあたり、引き続き、目的や内容を事前に樹木周辺に掲示するなど周知します。

そして、みどりのネットワークを形成することで、みどりにとっても、私たちにとっても安全で良好な環境づくりを行っていきます。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

ほうがこうしん
※萌芽更新：樹木を伐採した後の切り株から出る新芽を育て、木を若返らせる管理手法

腐朽が進んだ樹木の更新

キノコは、樹木の内部で「腐朽」が進んでいる可能性を示すサインです。

「腐朽」は、菌類などの働きによって樹木が分解される自然のプロセスの一部であり、森林の中では生態系の循環を支える重要な役割を果たしています。一方で、都市部の公園や街路等では、人の生活空間に近い場所に樹木があるため、樹木の内部で腐朽が進むと樹木の強度が低下し、弱い風でも倒れる危険性が高まる場合があります。

こうした事態を防ぐため、区では定期的な樹木の点検に加え、必要に応じて樹木医による診断も行っています。その結果、見た目には元気そうな樹木でも、内部で腐朽が進んでいることが明らかになる場合があります。その際、安全性を最優先に考え、やむを得ず伐採などを行うことがあります。

倒れる恐れがある樹木の伐採は、区民等の安全を守るために必要な作業です。伐採後は、以前よりも健全な樹木の生育環境や樹冠が形成できるように、新たな樹木を育てる検討を行っています。

腐朽が進んだ樹木



幹にキノコが生えている樹木



健全に見えるサクラの倒木

コラム

区民協働によるみどりの活動

屋敷林などの樹林地は、ねりまの原風景といえる景観であり、大切なみどりです。こうした樹林地では、区民団体の皆様がそれぞれの特性を活かしながら、生き物の生息・生育環境に配慮したきめ細やかな維持管理や、樹林地の魅力を発信するイベントなどの多彩な活動を展開しています。

ねりまのみどりを、より豊かで魅力あるものにするために、区民の皆様とともにきめ細やかな管理に取り組みます。

その他区民協働について
詳しくは区HPから



清掃作業
[石庭の森緑地 / 東大泉7丁目]



せん定作業
[南高松の森緑地 / 高松2丁目]



苗木育成
[清水山の森 / 大泉町1丁目]